

会 長 就任あいさつ

会 長 中 村 豊

令和5年度第1回理事会が4月15日開催され、会則第10条に基づき2023～2024年（1期2年）の会長に選任された中村 豊です。よろしくお願いします。

本会は平成19年11月17日に（社）神奈川県放射線技師会のOB諸氏により創設され、16年目が経過しています。この間の活動は「創立10周年記念誌」や「創立15周年記念誌」に詳細に記載していますので、本会ホームページをご覧ください。（<https://kanagawahohyuh.sakura.ne.jp>）

諺に「創業易、守成難」（事業を起こすことより、継続する方が難しい）とあり、会の運営は紆余曲折ながら、役員 노력と会員の協力により、地域住民に対する「放射線の安全・安心」の啓発活動と会員相互の親睦と情報交換の会の目的に沿い、継続されてきました。

特にこの15年間、会の創立から会運営を指揮した前会長 長谷川 武氏の企画力と指導力には敬意を表します。理事会では勇退した前会長に対し、「名誉会長」を委嘱することを決定しました。会員皆様もご賛同してくださると思います。

令和5年度からは定款が会則に変更され、新たな役員組織に、副会長 橘 亨氏、小嶋 昌光氏、監事 福田 利雄氏、小松崎眞一氏、理事 千田 久治氏が専任されました。よろしくお願いします。

さて、この3年間は新型コロナウイルスの感染拡大により会員が顔を合わすような活動は自粛してきましたが、今年5月5日WHOは世界の感染状況などから新型コロナ「緊急事態」終了を宣言しました。政府も8日から新型コロナウイルス感染症を2類から季節性インフルエンザと同様の「5類感染症」に引き下げました。これにより療養や感染対策は個人の判断にゆだねられ、社会生活が以前のような正常な状態に戻ることでしょう。しかし、コロナウイルスが社会から消滅したわけではありません。コロナウイルスは人間を宿主として感染を繰り返し、オミクロン株からXBB株に変異することが予想されています。会員は医療職種であり、高齢者も多いので、感染状況を念頭に感染防止5原則（マスク着用、うがい、手洗い、換気、三密注意）に配慮しながら、令和5年度の事業計画を実施していきます。

早速、理事会では「放談会」の開催を模索しております。また、会員への情報発信の迅速化を図るため、パソコンやスマホでのメールにも取り組む予定です。

常に理事会では放友会の活性化について論議しておりますが、今、話題のAI（ChatGPT）に質問してみると、ほとんど本年度の事業計画を実行することが活性化につながるとの答えでした。

本会の活動が会員皆様の若々しい前向きな姿勢を維持し、様々な情報を収集し、発信するなどアクティブな生活を送ることへの一助になるよう願っております。

会員皆様の本会活動への積極的参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023年（令和5年）4月15日